



地域を支え、暮らしを守る。そして未来を創る若き技術者たち

体験記は
Webで見てねー！



建設現場も様変わりしています。土地の状況に合わせて新しい工法を取り入れたり、環境を損なわないように設計したり。住宅街であれば、周辺住民への配慮も行いつつ作業を行います。そこには、ICTなどの新しい技術が欠かせません。例えば、技術者同士で進捗状況をオンラインツールで共有し、時には遠隔で操作・指示。ドローンやロボットなどを導入し、無人化・自動化が進められている工事もあります。かつて「3K」と言われた建設現場はDXにより生産性が向上し、スマートに、現代的に進化しています。

同時に「人」にしかできない仲間への目配りや、現場をスマートに進めるチームワークが、変わらず大切にされていることを目の当たりにしました。時に厳しい環境の中でも、チームで助け合い、課題を乗り越え、成長していく。そんな人と人の信頼関係が現場を支えています。そして技術と人が結び合って、私たちの暮らしは守られているのです。新潟を住み続けられる街にするために。未来へつなげるために。支える人、守る人たちと一緒に、「これからも考えていきます。

建設現場へ
つなげるために。
技術と人ができること

建設現場も様変わりしています。土地の状況に合わせて新しい工法を取り入れたり、環境を損なわないように設計したり。住宅街であれば、周辺住民への配慮も行いつつ作業を行います。そこには、ICTなどの新しい技術が欠かせません。例えば、技術者同士で進捗状況をオンラインツールで共有し、時には遠隔で操作・指示。ドローンやロボットなどを導入し、無人化・自動化が進められている工事もあります。かつて「3K」と言われた建設現場はDXにより生産性が向上し、スマートに、現代的に進化しています。

同時に「人」にしかできない仲間への目配りや、現場をスマートに進めるチームワークが、変わらず大切にされていることを目の当たりにしました。時に厳しい環境の中でも、チームで助け合い、課題を乗り越え、成長していく。そんな人と人の信頼関係が現場を支えています。そして技術と人が結び合って、私たちの暮らしは守られているのです。新潟を住み続けられる街にするために。未来へつなげるために。支える人、守る人たちと一緒に、「これからも考えていきます。

「住み続けられるまちづくりを」。SDGsに掲げられている目標に向かって「Re:Think インフラプロジェクトつなごう！新潟の未来！」は始まりました。私たちの住む新潟を、ずっと安全に暮らせる、災害にも強いまちにするために、いったい何をすればいいのか。それを考えることが、プロジェクトのテーマです。昨年は「知ること」をテーマに、過去を振り返りつつ、堰(せき)やダム、橋といったインフラを訪ねました。今年は、インフラに関わっている「人」、中でも未来を担う若手技術者に注目。どのように「街」や「暮らし」を支えているのかを聞き、未来に向けて何をつなごうとしているのか、つなぐべきか一緒に考えました。山や田んぼを守るために建造物をつくる人、世紀の大工事に関わる人。そして設計や調査を通して安全を支える人。新潟県内のさまざまな現場で働く一人一人が、地域の暮らしを守ることに大きな誇りとやりがいを持つて仕事に向き合っています。そしてまっすぐ未来を見つめ、夢を語る姿が印象的でした。

**つなごう！
Re:Think インフラプロジェクト
新潟の未来！**



今を支え、未来をひらく、新潟とともに

一般社団法人 新潟県建設業協会



公益財団法人
建設業福祉共済団

■取扱機関:(一社)新潟県建設業協会
正確な掛け金の試算や資料請求はこちらまで
FREE フリーコール 0120-913-931

